



大津波と火災によって町の中心部は壊滅的な被害を受けた

「東日本大震災」の被害状況



打ち上げられた漁船



倒れた堤防



JR 山田線「陸中山田駅」は津波後に火災で焼失 線路もなくなりホームと駅舎跡だけが残った



大津波と火災によって一瞬にして少し前まであった普通の生活が消えてしまった



「OK」は持ち主が判断したもの

「鯨と海の科学館」にある巨大マッコウクジラの標本も津波によって浸水



住宅の基礎部分だけが残った住宅街

難をのがれ必死で食べ物を捜す猫



この道が運命を左右した（道の向こうは火災による被害はなかった）



変わりはてた漁港



町の半分が被災「がんばろう山田 一歩ずつ前へ山田町」



登録とミーティングを行い、ボランティア活動の現場へ移動



側溝の泥かき作業
(奥は土森会長、手前は林事務局長)



猛暑の中でのがれき撤去作業 35℃を超える日もあり熱中症対策が欠かせない



土砂崩れて埋もれた家屋は、土台が見えるまで土砂とがれきを撤去

災害からの復旧・支援ボランティア活動



国内だけでなく海外からも救援物資が届く



仮設風呂のそうじ

① みえ災害ボランティアセンター「ボラパック」の参加状況

日程	参加者	内容
3便(5/6出発)～36便(11/12出発) ※ボラパックは、12月1日～翌年3月31日 まで募集の一時中断を受け、一旦区切りとした	連合三重登録参加者のべ77名(男性69名、女性8名)、リピーターあり ※全体で1便～36便の参加者のべ人数648名	○岩手県山田町でがれき撤去や支援物資仕分け、仮設風呂掃除など ○ボランティア作業の準備品やボランティアの物品調達など



みんなの笑顔を取り戻し元気な町づくりのお手伝い



思い出のつまった写真を洗浄



がれきをつめた土のう袋

参加者の声



みえボラ第3便に参加して 住友電装労働組合 執行委員長 岩田安正さん

ボランティアとして一番大切なことは現地の方から信頼されること! ニーズには必ずこたえること、頼りにされなければ復興の手助けが出来なくなります。どれだけ忙しくても、顔がだせるよう調整しました。

山田町は他からのボランティアがあまり入らず、これからも支援の手が長期にわたり必要です。大変な事も多くありましたが、機会があればまたぜひ支援に行きたいと思っています。



救援物資を仕分けて仮設住宅へ届ける 物資は賞味期限が切れていないか要チェック

② その他ボランティア活動への派遣

派遣先	日程	場所	参加者	内容
連合本部(東海ブロック)	6月27日~7月3日	福島県会津若松BC	2名	支援物資の仕分け作業
連合本部(東海ブロック)	8月25日~9月3日	宮城県仙台BC	1名	現地スタッフ研修として職員が参加
亀山地協	10月8日~10月10日	岩手県陸前高田市	1名	家屋の泥かき作業

会津若松BC(ベースキャンプ)



支援物資の仕分け作業

仙台BC(ベースキャンプ)



連合救援ボランティアは第1陣(3月31日)~第24陣(9月25日)まで6,023人を派遣(延べ活動人数34,549人)

陸前高田市



亀山地協主催のボランティア活動に参加



鎮魂と希望の鐘
Bell of Requiem and Hope

この鐘は、震災による犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、復興への願いを込め、旧町立図書館跡地(通称御蔵山)に建立され、2012年3月11日に除幕式が行われた。鐘の近くには、時がたっても震災を忘れることがないように、震災による火災で焼失したJR陸中山田駅の屋上にあった大時計も展示されている。



山田町役場から見た景色 一日も早い復興を願う

つながる ささえる 復興への道へ



ガレキは撤去されたが復興は進んでいない



海岸もひっそりと静まりかえっている



海から打ち上げられた大きな石や鉄くずが残る





海水に浸った土地 復興がすすまないまま草だけが生い茂る



1年が経過…現在もボランティア活動 継続中



海岸の清掃活動「きれいな海を取り戻そう」



保育園の花壇に花を植える



アロマオイルのハンドマッサージで気分転換